

卒業論文 2013年度

ファミリー向けエンタテインメント作品のあり方
- 『ミュウツアの逆襲』の脚本分析を通して-

平成26年1月20日

学部：総合政策学部

学年：4年

学籍番号：71002045

氏名：片倉摩美

指導教員：藁谷郁美

1. 目的	4
2. 研究の位置づけ	4
3. 手法	4
4. 仮説	4
5. 『ミュウツアの逆襲』概要	5
5. 1 あらすじ	5
5. 2 主な登場人物	5
5. 3 用語解説	6
6. ミュウツアの行動および心情の動き	6
6. 1 プロローグ	6
6. 2 誕生	7
6. 2. 1 試験管を割り、外の世界へ出てくる	7
6. 2. 2 博士と会話し、自分がミュウのコピーであり、最強のポケモンであると知る	9
6. 2. 3 研究所を破壊する	10
6. 3 ロケット団との出会い	11
6. 3. 1 研究所跡地に佇んでいるところに、サカキ (Giovanni) のヘリコプターが近づいてくる	11
6. 3. 2 ロケット団のボスであるサカキ (Giovanni) が研究所にやってくる	12
6. 3. 3 サカキ (Giovanni) のところで働く	13
6. 3. 4 サカキ (Giovanni) に反抗し、基地を破壊する	15
6. 4 ポケモン城	17
6. 4. 1 人間への逆襲を誓う	17
6. 4. 2 破壊した研究所の跡地に城を築く (映画本編に建築中の描写なし)	17
6. 5 逆襲	17
6. 5. 1 より強力なコピーポケモンを作り出すために優秀なトレーナーを	17
6. 5. 2 トレーナーの前に姿を現す	17
6. 5. 3 人間とポケモンの愚かさを説く	21
6. 5. 4 コピーポケモンとトレーナーの持つオリジナルのポケモンを戦わせる	23
6. 5. 5 トレーナーのポケモンを奪い、コピーを生み出す	26

6. 5. 6	オリジナルのポケモンを解放したサトシ (Ash) がミュウツールの元に戻ってくる	28
6. 6	ミュウの登場	29
6. 6. 1	サトシ (Ash) を助けたミュウに攻撃を仕掛ける	29
6. 6. 2	オリジナルとコピーのバトルが始まる	32
6. 7	サトシの石化	34
6. 7. 1	サトシ(Ash)が本物とコピーの戦いを止めるためミュウとミュウツールの間に入るも、攻撃を受け石化する	34
6. 7. 2	オリジナルのポケモンとコピーのポケモンが涙を流し、サトシ(Ash)が復活する	36
6. 8	終焉	36
7.	日米の比較結果	36
8.	『フランケンシュタイン』(原著) との比較	40
8. 1	『フランケンシュタイン』概要	40
8. 1. 1	あらすじ	40
8. 1. 2	主な登場人物	40
8. 2	比較	40
9.	登場人物の示すもの	42
9. 1.	ミュウツール	42
9. 2.	サトシ	49
10.	結論	51
11.	課題	51
12.	引用	52
13.	参考文献	52

1. 目的

劇場版ポケットモンスター第1作目である『ミュウツーの逆襲』は米国での日本映画興行第一位を未だに守り続けている。単純にすでに大きな市場を獲得していたポケモンの映画だったから評価されたのならば、その後の作品も同じくらいヒットしていてもおかしくない。この日本のファミリー向けエンタテインメントが、どうやって米国での人気を得たのか、テキストの面から分析する。それによって、米国で日本製のファミリー向けエンタテインメントがヒットするために必要なことを探し出す。

2. 研究の位置づけ

比較文学の分野において、文学作品については様々な研究が行われているが、現代のファミリー向けアニメーション映画についてはまだあまり行われていない。今回の研究では、単に日米版の違いを分析するだけでなく、そこから日本のファミリー向けエンタテインメントを米国に輸出し、ヒットさせるために必要なことを探る。

3. 手法

湯山邦彦、田尻智、首藤剛志『ポケットモンスター「ミュウツーの逆襲/ピカチュウのなつやすみ」【劇場版】』(DVD)(2000年6月23日)(小学館)から書き起こした日米のスク립トを比較し、日米でどのような違いがあるのかを探り、その背景を研究する。

4. 仮説

『ミュウツーの逆襲』の脚本家、首藤剛志は自身のコラムの中で、この作品のテーマは自己存在への問いであること、それが海外で受け入れられる自信が無かったことを語っている。しかし、実際米国では日本映画興行記録第1位を守り続けており、首藤自身もこのテーマが米国においても受け入れられたのだと語っている。

しかし、本当に米国でこのテーマがそのまま受け入れられたのだろうか。米国のアニメといえば、分かりやすく、基本的には子どもだけが見るものである。また、本作のメインキャラクターであるミュウツーは人工生命であり、そのことに対して米国においては日本よりも敏感な反応が予想される。そういった市場でこの重いテーマの作品がそのまま受け入れられたとは考えられず、私は以下のような仮説を立てた。

まず、米国で受け入れられやすいよう、大きな改変がされているのではないかということ。その背景として、キリスト教をバックグラウンドに持つということが挙げられるのではないか。またそれによって日本版との登場人物の役割の違いが現れるのではないかという仮説を立てた。

5. 『ミュウツウの逆襲』 概要

5. 1 日本版あらすじ

ロケット団によって『ミュウ』のまつ毛から作られたコピーポケモン『ミュウツウ』が、自分の存在意義を見出すことができず、自分を作り出した人類に復讐する。そのために、自ら『最強のポケモントレーナー』を名乗り、サトシを含む優秀なポケモントレーナーをポケモン城へと招待し、彼らのポケモンを奪いコピーを作り出す。サトシ達のポケモンは強力なコピーのポケモンに全く歯が立たない。そこにミュウツウのオリジナルであるミュウが現れ、コピーとオリジナルのどちらが本物かを決める戦いが始まる。最後はサトシがその争いを身を挺して止め、石化してしまうも、ポケモン達の涙によって復活を遂げる。ミュウツウはその様子を見て、コピーもオリジナルも同じ生き物であることに納得し、コピーポケモン達を連れてどこかへ飛び立ち、サトシ達の記憶を消す。

5. 2 主な登場人物

<ポケモン>

ミュウツウ(Mewtwo)：人間によって生みだされた、ミュウのコピー。

ミュウ(Mew)：ミュウツウのオリジナル。世界一珍しいと言われるポケモン。

ピカチュウ(Pikachu)：ポケモンシリーズ（アニメ、映画共に）の主人公であるサトシのポケモン。サトシが最初にもらったポケモンであり、強い絆で結ばれている。

ニャース(Meowth)：努力によって、人間の言葉を話すことができるようになったポケモン。誰かに所有されている訳ではなく、自分の意思でロケット団に所属している。

<人間>

サトシ(Ash)：ポケモンシリーズ（アニメ、映画共に）の主人公。ポケモントレーナー。ポケモンマスターを目指して旅をしている。ポケモンバトルの腕を見込まれ、ポケモン城に招待される。

カスミ(Misty)：サトシと共に旅をしている少女。ポケモントレーナー。

タケシ(Brock)：サトシと共に旅をしている少年。ポケモントレーナー。

ジョーイ(Joy)：ポケモンセンターというポケモンの治療施設で勤務していたが、ミュウツウに拉致、記憶の操作をされる。ミュウツウやコピーポケモンの世話をさせられていた。

ソラオ(Male Trainer)：ポケモン城に招待された優秀なトレーナーの一人。

スイート(Female Trainer)：ポケモン城に招待された優秀なトレーナーの一人。

ウミオ(Fergus)：ポケモン城に招待された優秀なトレーナーの一人。

サカキ(Giovanni)：ロケット団のボス。

ムサシ(Jessie)：ロケット団に所属している女性。サトシのピカチュウを狙っている。

コジロウ(James)：ロケット団に所属している男性。サトシのピカチュウを狙っている。

5. 3用語解説

・ポケモントレーナー

モンスターボールでポケモンを捕まえ、育て、戦わせる職業のこと。トレーナー(Trainer)と略す。

・ロケット団

ポケモンを利用した犯罪組織。

6. ミュウツウの行動および心情の動き

まず、この物語のメインキャラクターであり、ミュウのコピーとして人間に作られたミュウツウの行動および心情の動きを日米で比較していく。映像の部分から日米で共通するミュウツウの行動によって場面分けを行い、それぞれの場面のスクリプト、およびそこから読み取れる心情の動きを記載している。尚、コピーポケモンの元となったポケモンは「オリジナル」と表記する。一部ミュウツウ自身の行動でなく、ミュウツウが見たものも含まれている。

6. 1プロローグ

試験管の中で、外の世界を夢見る

・スクリプト

<米国版>

(水の中にいるような映像。途中にミュウが山の彼方に飛び去る。)

Narrator: Life. The great miracle. And, the great mystery.

Mewtwo: Who am I?

Narrator: Since the beginning, humans and Pokémon alike have searched for its meaning.

Mewtwo: What am I?

Narrator: Many strange and wondrous legends evolved from the pursuit of life's mysteries.

Mewtwo: Where am I?

Narrator: But none is stranger than this tale, of the most powerful Pokémon of all.

Mewtwo: I am ready... to be.

<日本版>

(水の中にいるような映像。水中にミュウが現れる。ミュウ山の彼方に飛び去る。)

ミュウツー：此処は何処だ。私は誰だ。私は記憶に無いこの世界をいつも夢見ている。

(ミュウが出てくる)

ん？ お前は誰だ。待ってくれ！私は、あの誰かが飛び立っていたあの世界を、忘れない。

・心情

<米国版>

自分は何者なのかといった疑問以外の心情を読み取ることはできない。

<日本版>

疑問に加え、外の世界に対する強いあこがれを読み取ることができる。

6. 2 誕生

6. 2. 1 試験管を割り、外の世界へ出てくる

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Where... am I? This... this is not the same. Was everything before... just a

dream? Why?

(外からミュウツーを見た視点に切り替わる)

Doctor&Scientist: (ミュウツーの脳波が活発になっているなどのギャ)
(夢で見た外の世界が脳裏をよぎる)

Mewtwo: Those voices!

Doctor&Scientist: (ミュウツーの脳波が活発になっているなどのギャ)
(//)

Mewtwo: They're outside!

Doctor&Scientist: (ミュウツーの脳波が活発になっているなどのギャ)

(ミュウがよぎる)

Mewtwo: Where I must be!

(試験管を割り外に出てくる)

<日本版>

ミュウツー: ここはどこだ。私は誰だ。誰が私をここへ連れてきた。

(外からの視点に切り替わる)

ミュウツー: 私は誰だ。なぜここにいる。いや、私はまだここにいるだけだ。私はまだ、

(夢で見た外の世界が脳裏をよぎる)

世界に生まれてすらいない。

(//)
(ミュウが脳裏をよぎる)

私は誰だ！

(試験管を割り外に出てくる)

・心情

<米国版>

単純に今までと違う状況であるということに対する戸惑いののちに、自分がいるべき場所は外の世界なのだという強い意志を読み取ることができる。いるべき場所にいるために、試験管を割り外に出てきた。

<日本版>

先ほどの場面に引き続き、自分の存在への疑問を強く持っており、外の世界に対する強いあこがれを持っている。そのあこがれから、試験管を割り外に出てきた。

6. 2. 2 博士と会話し、自分がミュウのコピーであり、最強のポケモンであると知る

・スクリプト

<米国版>

Doctor: Quiet! Let us hear its Psychic powers!

Mewtwo: Psychic powers?

Doctor: For years we struggled to successfully clone a Pokémon to prove our theories. But you're the first specimen to survive! That is Mew, the rarest of all Pokémon. From its D.N.A we created you: Mewtwo!

Mewtwo: Mewtwo!? Am I only a copy, nothing but Mew's shadow?

Doctor: You are greater than Mew! Improved through the power of human ingenuity! We used the most advanced techniques to develop your awesome Psychic powers.

Mewtwo: So, I am simply the end result of your experiment. What becomes of me now, that your experiment is over?

Doctor: Oh, our experiment isn't over yet - it's just beginning! Now the serious testing begins!

Mewtwo: These humans... They care nothing for me.

<日本版>

博士：完成したぞ、ミュウツーが！

ミュウツー：ミュウツー？

博士：お前のことだ。世界で一番珍しいと言われているポケモンから、我々はお前を生み出した！そう、あれが世界で一番珍しいと言われるポケモン、ミュウだ！

ミュウツー：ミュウ？あれが私の親なのか。父なのか。母なのか。

博士：とも言える。が、そうとも言えない。お前は、ミュウをもとにして更に強く作られた。

ミュウツー：誰が。母でもなく父でもなく、ならば神が、神が私を作ったとでもいうのか。

博士：この世で別の命を作り出せるのは、神と人間だけだ。

ミュウツー：お前たちが、人間がこの私を？

・心情

<米国版>

自分がミュウのコピーでしかないこと、実験の産物でしかないこと、人間が自分を気にかけないことに対して怒りを感じている。

<日本版>

生まれたことに対する疑問、さらに自分が親から生まれたのではなく、人間に作られたものであることに疑問を抱いている。

6. 2. 3 研究所を破壊する

ミュウツーが自分のいる研究所を破壊する直前のシーン。この台詞が始まる前に、プロローグで使われたミュウが山の彼方に飛び去るシーンがリフレインする。

・スクリプト

<米国版>

Doctor&Scientist : (実験は成功したといったガヤ)

Mewtwo : Is that my purpose? Am I just an experiment, a laboratory specimen? This cannot be my destiny!

<日本版>

博士と研究員 : (実験は成功したといったガヤ)

私は誰だ。ここはどこなんだ。私は何のために生まれたんだ！

・心情

<米国版>

自分の生まれた目的は、ただの実験であるということに対して不満を抱いている。その運命を否定するために、研究所を破壊する。

<日本版>

他の生き物と違い、作られた自分は、いったいなんのために生まれたのかという疑問を抱いている。自分を生み出したことに対する怒りから、研究所を破壊する。

6. 3 ロケット団との出会い

6. 3. 1 研究所跡地に佇んでいるところに、サカキ(Giovanni)のヘリコプターが近づいてくる

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Behold my powers. I am the strongest Pokémon in the world, stronger even than Mew.

<日本版>

これが私の力。私はこの世で一番強いポケモン。ミュウ、お前よりも強いのか？

・心情

<米国版>

自分はミュウよりも強いのだと確信している。

<日本版>

世界最強である自分は、オリジナルであるミュウより強いのか疑問を抱いている。

6. 3. 2 ロケット団のボスであるサカキ(Giovanni)が研究所跡地へやってくる

・スクリプト

<米国版>

Giovanni: Those fools thought you were a science experiment. But I, I see you as a valuable partner.

Mewtwo: Partner?

Giovanni: With your Psychic powers, and my resources, together we can control the world.

Mewtwo: I do not need your help for that, human.

Giovanni: A wildfire destroys everything in its path. It'll be the same for your powers unless you control them. I can help you do that.

Mewtwo: How?

Giovanni: Trust me, and I'll show you a way to focus your powers that will make you invincible!

Mewtwo: Show me!

Giovanni: (ほくそ笑む)

<日本版>

サカキ：お前は確かに世界一強いポケモンかもしれない。だがこの世界にはもう一つ強いものがある。

ミュウツー：人間？

サカキ：(うなづく) 人間とお前が力を合わせれば、世界は我々のものだ。

ミュウツー：世界が我々のもの？

サカキ：ただし、お前のその力を野放しにすれば、世界は滅びるだけだ。お前は、力を制御せねばなるまい。

ミュウツー：制御？

サカキ：力にまかせて、世界中をこの島のように焼き尽くしていいのか？

ミュウツー：どうすればいいのだ。

サカキ：(ほくそ笑む)

・心情

<米国版>

Giovanni はミュウツーをパートナーとすると語る。ミュウツーも最初は跳ね除けるが、自分の力をコントロールする術を教えると言われ、ついていくことを決意する。

<日本版>

世界征服をもちかけられるが、それほど興味は示さない。しかし力を制御する方法に興味を持ち、ついていく。

6. 3. 3 サカキ(Giovanni)のところで働く

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: You say this armor protects my body, yet it suppresses my powers.

Giovanni: Your powers are not being suppressed; they're being focused.
Learn to use them to accomplish your purpose.

Mewtwo: What is that?

Giovanni: Patience my friend. Your purpose will become clear.

(サカキに従いポケモンとバトルする)

Mewtwo: So. This is my power!

(ポケモンの略奪を行う)

Mewtwo: I am in control now.

(ポケモンとバトルする)

Mewtwo: But why am I here?

<日本版>

ミュウツー：我が身を守る鎧で私の力を押さえつける。だがお前は私に何をさせようというのだ。

サカキ：簡単なことだ。この星で誰もがやってきたことをやればいい。

ミュウツー：誰もが？

サカキ：戦いと破壊と略奪。強いものが勝つ。

(サカキに従い、ポケモンとバトルする)

ミュウツー：しかし私は誰だ。

(ポケモンの略奪をする)

ミュウツー：私はどこにいる。

(ポケモンとバトルする)

ミュウツー：私は何のために戦っている。

・心情

<米国版>

自分の力をコントロールしていることに充実感を感じているが、サカキの言う目的がわからず困惑している。

<日本版>

サカキに従い戦いながらも、常に自分の存在意義を探っている。

6. 3. 4 サカキ(Giovanni)に反抗し、基地を破壊する

・スクリプト

<米国版>

(ロケット団の基地にミュウツーと Giovanni がいる)

Mewtwo: Now I fully perceive my power. But what is my purpose?

Giovanni: To serve your master. You were created to fight for me. That is your purpose.

Mewtwo: That cannot be. You said we were partners. We stood as equals!

Giovanni: You were created by humans to obey humans. You could never be our equal.

Mewtwo: Humans may have created me, but they will never enslave me! This cannot be... my destiny!!

Giovanni: Stop this now!

Mewtwo: I was not born a Pokémon; I was created. And my creators have used and betrayed me! So: I STAND ALONE!

Giovanni: Ah!

(Giovanni 逃げる)

(基地を破壊する)

<日本版>

(ロケット団の基地にミュウツーとサカキがいる)

ミュウツー：私は何のために生きている？

サカキ：お前はポケモンだ。ポケモンは人間のために使われ、人間のために生きる。

ミュウツー：お前のために戦えというのか？この私に人間のために戦えというのか？

サカキ：お前は人間に作られたポケモンだ。ほかに何の価値がある？

ミュウツー：私の価値だと？私は誰だ。私は何のために生きている。

(鎧を破壊しようとする)

サカキ：何をする！？

ミュウツー：私は人間に作られた。だが人間ではない。作られたポケモンの私はポケモンですらない！！

(サカキ逃げる)

(研究所を破壊する)

・心情

<米国版>

最初は自分をパートナーと言った Giovanni に平等であることを否定されたことをきっかけに、怒りが爆発する。自分を作り、利用し裏切った人間に頼らず、一人で生きていくことを決意する。作り出されたことより、利用され裏切られたことへの怒りを抱いている。

<日本版>

サカキに、自分は人間のために戦うしか価値のないポケモンだと言われ、怒りが爆発する。人間が自分を利用するためだけに生み出したことに対する怒りと、そういった経緯で生み出された自分は人間でもポケモンでもないことに悲しみを抱いている。

6. 4 ポケモン城

6. 4. 1 人間への逆襲を誓う

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Who am I? What is my true reason for being? I will find my own purpose. And purge this planet of all who oppose me; humans and Pokémon alike. The world will heed my warning. The reign of Mewtwo will soon begin.

<日本版>

ミュウツー：私は誰だ。ここはどこだ。誰が生めと頼んだ。誰が作ってくれと願った。私は私を生んだ全てを恨む。だからこれは、攻撃でもなく宣戦布告でもなく、私を生み出したお前たちへの、逆襲だ。

・心情

<米国版>

自分は一体何者であり何のために生まれてきたのかを自分の力で見つけること、自分に反抗するものは全て消すこと、世界征服を決意する。

<日本版>

自分の存在価値を見いだせず、自分を生み出したものを憎み、その存在に逆襲することを誓う。

6. 4. 2 破壊した研究所の跡地に城を築く（映画本編に建築中の描写なし）

6. 5 逆襲

6. 5. 1 より強力なコピーポケモンを作り出すために優秀なトレーナーを集める（スクリプトなし）

6. 5. 2 トレーナーの前に姿を現す

・スクリプト

<米国版>

Joy: You are about to meet my master. The time has come for your encounter with the greatest Pokémon master on earth.

(ポケモンたちざわめく)

(ミュウツー、階上から降りてくる)

Ash: What's that?

Pikachu: Pika.

All: Ah.

Joy: Yes. The worlds greatest Pokémon Master is also the most powerful Pokémon on earth. This is the ruler of New Island and soon the whole world: Mewtwo.

Ash: Mewtwo!

Fergus: A Pokémon can't be a Pokémon Master! No way!

Mewtwo and Joy: Quiet, human. From now on, I am the one who makes the rules.

Misty: How's it talking?!

Brock: It's Psychic!

(Fergus を超能力でふっとばす)

Mewtwo: Hmhmhm.

(Fergus、自分のポケモンにミュウツーを攻撃させるも、返り討ちにあう)

Mewtwo: Child's play! Your usefulness has ended!

(Joy、ミュウツーのコントロールを解かれ倒れこむ)

Brock: Nurse Joy!

Joy: Where am I? And how in the world did I get here?!

Mewtwo: You have been under my control. I transported you here from the Pokémon Centre. Your knowledge of Pokémon physiology proved useful for my plan. And now I have cleansed your tiny human brain of memories from the past two weeks.

Brock: Who are you?

Mewtwo: I am the new ruler of this world: the master of humans and Pokémon alike.

Misty: You're just a bully!

Pikachu: Pika!

<日本版>

ジョーイ：皆様、お待たせいたしました。最強のポケモントレーナーが、おいでになります。

(ポケモンたちざわめく)

(ミュウツー、階上から降りてくる)

サトシ：あれは……！

ピカチュウ：ピカ！

全員：おお！

ジョーイ：そう、この方は最強のポケモントレーナーにして、最強のポケモンであらせられる、ミュウツー様です。

サトシ：ミュウ……ツー……。

ピカチュウ：ピカ。

ウミオ：ポケモンがポケモントレーナー！？ばかな！！

ミュウツーとジョーイ：いけないか？私のルールは私が決める。

カスミ：この声！

タケシ：テレパシーか！

(ウミオを吹っ飛ばす)

(ウミオ、自分のポケモンにミュウツーを攻撃させるも、返り討ちにあう)

ミュウツー：たわいもない。お前にもう用はない！

(ジョーイ、ミュウツーのコントロールを解かれ倒れこむ)

タケシ：ジョーイさん！

ジョーイ：ここはどこ？ どうしてこんなところにいるの？

ミュウツー：私の世話をさせるためだ。ポケモンセンターから連れてきた。ポケモンの体のことに詳しい医者には便利だ。随分役に立った。お前は何も覚えていないだろうがな。

タケシ：なんだって！？

ミュウツー：人間など私の力をもってすれば、どうにでも操れる。

カスミ：ひどいことを！

ピカチュウ：ピカ！

・心情

<米国版>

Fergus の、ポケモンが最強のポケモントレーナーであるはずがないという発言に対して、自分だけがルールを決めるのだと返答しているように、自分がとても強力であり、世界の支配者になるのだということを人間や人間に付き従うポケモンに対して知らしめている。

<日本版>

ウミオの、ポケモンが最強のポケモントレーナーであるはずがないという発言に対して、「私のことは私が決める。」と返答しており、米国版のような他者を支配しようとする様子は見られない。目的は明らかにしていないが、人間を見下している。

6. 5. 3 人間とポケモンの愚かさを説く

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: You humans are a dangerous species. You brought me into your world with no purpose but to be your slave. But now I have my own purpose. My storm will create my own world; by destroying yours!

Brock: So you hate all humans? And you're gonna destroy us to save Pokémon?

Mewtwo: No. Your Pokémon will not be spared. They have disgraced themselves by serving humans. Those Pokémon are nothing but slaves!

Pikachu: Pika! Pikapika!

Mewtwo: So. You say I am wrong? That you are not this human's servant; you are his friend?

Pikachu: Pika!

Mewtwo: You are as pathetic as the rest!

(ピカチュウを吹っ飛ばす)

(サトシ、ピカチュウをかばい下敷きになる)

Pikachu: Pika! Pikapi?

Ash: Pikachu!

Mewtwo: Humans and Pokémon can never be friends.

<日本版>

ミュウツー：私は、一度は人間と一緒にやろうと思った。だが私は失望した。人間はポケモンにも劣る最低の生き物だ。人間のように、弱くてひどい生き物が支配していたら、この星は、だめになる。

タケシ：じゃあ、お前のような、ポケモンがこの星を支配するってのか！？

ミュウツー：ポケモンもだめだ。なぜだ？この星を人間に支配されてしまった。人間のために生きているポケモンさえいる！

ピカチュウ：ピカ！ピカピカ！

ミュウツー：なんだと？「言いなりになんてなっていない。好きでそのトレーナーと一緒にいる。」？

ピカチュウ：ピカ！

ミュウツー：一緒にいること自体が間違っている。

(ピカチュウを吹っ飛ばす)

(サトシ、ピカチュウをかばい下敷きになる)

ピカチュウ：ピカ！ピカピ！

サトシ：ピカチュウ！

ミュウツー：弱いポケモンは人にすり寄る。

・心情

<米国版>

人間が弱くて残酷な生き物であり、ポケモンは奴隷にすぎない。人間は自分を利用するために生み出したが、自分は世界を支配するという目的を見つけたと語っている。また、Ashとピカチュウの様子を見て発した、人間とポケモンは決して友達になれないという台詞は、過去自分をパートナーにすると書いた Giovanniに裏切られたことが影響しているのではな

いか。

<日本版>

人間は最低の生き物であり、その最低の生き物に地球を支配されてしまったポケモンも駄目だと語り、この星をコピーが支配すべきだということをほのめかす。ピカチュウの語りかけに対して、ばっさりと切り捨てる。「弱いポケモンは人にすり寄る。」という台詞は、一度は人間と歩もうとした過去の自分と重ね合わせているのではないだろうか。

6. 5. 4 コピーポケモンとトレーナーの持つオリジナルのポケモンを戦わせる

・スクリプト

<米国版>

Male Trainer: If you are a Pokémon, there's no reason I can't capture you! Go, Rhyhorn!

(Male Trainer、Rhyhorn にミュウツーを攻撃させるが返り討ちにされる)

Mewtwo: Fools! Your Pokémon attacks cannot weaken me. My powers are too great! No Trainer can conquer me!

Ash: Then you won't mind proving it in a real match!

Mewtwo: Is that a challenge?

Ash: You bet it is!

(ミュウツー、コピーポケモンをコピー製造機から呼び起こす)

Mewtwo: Like most Pokémon Trainers, I too, began with Charmander, Squirtle and Bulbasaur. But for their evolved forms, I used their genetic material to clone even more powerful copies.

Female Trainer: Copies!

Male Trainer: They're clones!

(ポケモンたちざわめく)

(ポケモンバトルのためのスタジアムが現れる)

Brock: A stadium! Mewtwo planned this all along!

Male Trainer: Your fake Venusaur can't beat my real one, right, Bruteroot?

Female: We'll blow away that Blastoise, won't we, Shellshocker?

Ash: It may not have a nickname, but I do have... Charizard. I Choose You!

(Charizard、モンスターボールから出てきて、いきなりミュウツーに攻撃する)

Ash: Charizard! I didn't say start!

(ミュウツー、リザードンの攻撃を水で相殺する)

Mewtwo: Your Charizard is poorly trained.

Mewtwo: Which of you will oppose me first?

(ソラオの Venusaur、スイートの Blastoise、サトシの Charizard の順にミュウツーのコピーポケモンに挑むも歯が立たない)

Ash: No, Charizard! No! Are you okay?

Mewtwo: As the victor, I now claim my prize: your Pokémon!

<日本版>

ソラオ：どんなポケモンだって、ポケモンならゲットできないはずはない！行け、僕のサイホーン！

(ソラオ、サイホーンにミュウツーを攻撃させるが返り討ちにされる)

ミュウツー：無駄だ。私はこの星のいかなるポケモンよりも強く生まれてきた。

サトシ：そんなことやってみなきゃ分からないだろ！

ミュウツー：やってみるか？

サトシ：望むところだ！

(ミュウツー、コピーポケモンをコピー製造機から呼び起こす)

ミュウツー：ポケモントレーナーを目指す人間の誰もが最初に手に入れた、ヒトカゲ、ゼニガメ、フシギダネ。このものたちは私が作ったその進化系の、コピー。

スイート：コピー！？

ソラオ：あれが？

(ポケモンたちざわめく)

(ポケモンバトルのためのスタジアムが現れる)

タケシ：競技場……ポケモンバトルをしようってのか？

ソラオ：僕にはフシギバナのバーナードがいる！

スイート：私には、カメックスのクスクスがいるわ！

サトシ：俺だって、リザードンがいる！リザードン、君にきめた！

(リザードン、モンスターボールから出てきて、いきなりミュウツーに攻撃する)

サトシ：リザードン！そりゃ不意打ち……

(ミュウツー、リザードンの攻撃を水で相殺する)

ミュウツー：随分しつけの悪い、リザードンだな。

ミュウツー：最初の相手は、誰かな？

(ソラオのフシギバナ、スイートのカメックス、サトシのリザードンの順にミュウツウのコピーポケモンに挑むも歯が立たない)

サトシ：リザードン！しっかりしろ！大丈夫か？

ミュウツウ：スピードもパワーも不足している。

・心情

<米国版>

スタジアムをあらかじめ用意しておいたこと等から、このポケモンバトルを想定していたと考えられる。コピーポケモン達に絶対の自信を持っている。

<日本版>

スタジアムをあらかじめ用意しておいたこと等から、このポケモンバトルを想定していたと考えられる。コピーポケモン達に絶対の自信を持っている。最後の台詞に、やはりオリジナルよりコピーの方が優れているという考えが現れている。

6. 5. 5 トレーナーのポケモンを奪い、コピーを生み出す

・スクリプト

<米国版>

(ミュウツウが、どんなポケモンでも捕まえられるモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

Ash: Uh. Uh, hey, wait!

Misty: What are you gonna do with those Pokemon?

Mewtwo: I will extract their DNA to make clones for myself. They will remain safe in this island with me, while my storm destroys the planet!

Brock: You can't do this!

Ash: Yeah, Mewtwo! We won't let you!

Mewtwo: Do not attempt to defy me!

(ミュウツー、Ash を超能力で吹っ飛ばす)

Mewtwo: This is my world now!

(大量のモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

<日本版>

(ミュウツーが、どんなポケモンでも捕まえられるモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

サトシ：やめろ！

カスミ：人のポケモンをとる気なの！？

ミュウツー：とる？いいや、お前たちが自慢するポケモンより、さらに強いコピーを作るのだ。私に相応しい。

タケシ：コピーだと？

サトシ：やめろ！そんなの反則だ！

ミュウツー：私に指図をするな！

(サトシを超能力で吹っ飛ばす)

ミュウツー：私のルールは私が決める！

(大量のモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

・心情

<米国版>

現在の世界を破壊し、新たな世界を支配しようとしている。

<日本版>

自分のことに関して他人に干渉されることを極度に嫌っている。

6. 5. 6 オリジナルのポケモンを解放したサトシ(Ash)がミュウツウの元に戻ってくる
・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Humans, you have served my purpose. I am sparing your lives... for the moment. But you cannot escape your fate. The hour of my vengeance draws near. Behold!

(コピーポケモン達がミュウツウとトレーナー達のいる場所へ走りこんでくる)

Mewtwo: With Pokemon and humans eliminated, the clones shall inherit the world!

(サトシが現れる)

Ash: You can't do this. I won't let you!

(サトシの後ろからオリジナルのポケモン達が現れる)

Mewtwo: It is useless to challenge me!

Ash: It's not gonna end like this Mewtwo. We won't let it! You're mine!

(Ash、ミュウツウに殴り掛かる)

<日本版>

ミュウツウ：人間たちよ、命まで取ろうとは言わない。さっさと帰るがいい。あの嵐の中を帰ればな。

(コピーポケモン達がミュウツウとトレーナー達のいる場所へ走りこんでくる)

ミュウツウ：何事だ？

(サトシが現れる)

サトシ：許せない。お前なんか許さない！

(サトシの後ろからオリジナルのポケモン達が現れる)

ミュウツー：お前が逃がしたのか。

サトシ：俺は、俺のポケモンを、俺の仲間を、守る！

(サトシ、ミュウツーに殴り掛かる)

・心情

<米国版>

人間とポケモンを排除してクローンが世界を支配すべきだという強い意志を感じさせる。
Ash のことを見下している。

<日本版>

人間のことはもう用済みだと考えている。サトシの行動に対して驚きを感じている。

6. 6 ミュウの登場

6. 6. 1 サトシ(Ash)を助けたミュウに攻撃を仕掛ける

・スクリプト

<米国版>

(サトシ、吹っ飛ばされるもクッションが出現し助かる)

Mewtwo: What?

(ミュウが現れ、サトシと楽しげに戯れる)

Mewtwo: Can it be?

(ミュウツー、ミュウに攻撃を仕掛けるも当たらない)

(ミュウツー、ミュウに次々と攻撃を仕掛けるも当らず、ミュウは楽しげに笑う)

Brock: What is that?

Misty: I don't know.

Mewtwo: Mew. So, finally we meet.

Brock: Mew?

Mew: Mew?

Mewtwo: I may have been cloned from your DNA, but now I will prove that Mewtwo is better than the original. Superior to Mew!

Mew: Mew!

Male Trainer: Mew and Mewtwo.

Female Trainer: So Mewtwo was cloned from Mew!

(ミュウ、ミュウツーから逃げ回る)

Mewtwo: Why do you flee from me? Are you afraid to find out which of us is greater?

(ミュウ、ミュウツーから逃げ回るも、攻撃をくろう)

Mewtwo: HmHm.

(ミュウ、反撃に移り、攻撃をミュウツーに当てる)

<日本版>

(サトシ、吹っ飛ばされるもクッションが出現し助かる)

ミュウツー：何？

(ミュウが現れ、サトシと楽しげに戯れる)

ミュウツー：お前は……

(ミュウツー、ミュウに攻撃を仕掛けるも当たらない)

ミュウツー：そっちなか！

(ミュウツー、ミュウに次々と攻撃を仕掛けるも当たらず、ミュウは楽しげに笑う)

タケシ：あれは……

カスミ：ポケモン？

ミュウツー：ミュウ……！世界で一番珍しいと言われるポケモン！

ウミオ：ミュウ？

ミュウ：ミュ？

ミュウツー：確かに私はお前から作られた。しかし強いのはこの私だ。本物はこの私だ！

ミュウ：ミュウ。

ソラオ：ミュウとミュウツー？

スイート：ミュウからミュウツーが作られた……。

ミュウツー：生き残るのは私だけだ！

(ミュウ、ミュウツーから逃げ回る)

ミュウツー：なぜ戦わん？戦いを避けるのは私が怖いから？

(ミュウ、ミュウツーから逃げ回るも、攻撃をくらう)

ミュウツー：ふん。たわいもない。

(ミュウ、反撃に移り、攻撃をミュウツーに当てる)

・心情

<米国版>

ミュウに対して、敵意をあらわにする。自分はクローンであるが、オリジナルより優れているということを証明しようとする。

<日本版>

ミュウに対して、敵意をあらわにする。自分はクローンであるが、オリジナルより優れている自分こそが本物であることを証明しようとする。

6. 6. 2オリジナルとコピーのバトルが始まる

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Oh! So, you do have some fight in you! But I have no time for games. Destiny is at hand. Who will rule? My super Pokemon? Or your pathetic group of spineless inferior Pokemon?

Mew: Mew!

Mewtwo: We were created with powers far stronger than the originals!

Mew: (複数回ミュウと鳴く)

(ミュウとミュウツーのやりとりを聞いているロケット団に画面が移る)

Meowth: Mew's got a good point!

Jessie: What's it saying?

Meowth: Mew says you don't prove anything by showing off a lot of special powers, and

that a real Pokemon's strength comes from the heart!

(画面がミュウツーに戻る)

Mewtwo: My clones don't need their powers to prove their worth!

(ミュウツー、ミュウに向けて衝撃波を放つも、よけられる)

Mewtwo: I will block all the Pokemon's special abilities using my Psychic powers. Now we shall see who triumphs. GO!

<日本版>

ミュウツー：少しは手ごたえのある相手というわけだな。どちらが本物か決めるのはこれからだ。ミュウと私のどちらが強いのか、元のお前たちと私たちどちらが強いのか。

ミュウ：ミュウ。

ミュウツー：本物より我々は強くなるよう作られている。

ミュウ：(複数回ミュウと鳴く)

(ミュウとミュウツーのやりとりを聞いているロケット団に画面が移る)

ニャース：なるほどにや。

ムサシ：なんだって？

ニャース：本物は本物だ。技など使わず体と体でぶつかれば、本物はコピーに負けない！
と言ってるにや。

(画面がミュウツーに戻る)

ミュウツー：本物は本物だ、だと？

(ミュウツー、ミュウに向けて衝撃波を放つも、よけられる)

ミュウツー：いいだろう！どちらが本物か技なしでも決めてやる！

（コピーポケモン達に向かって）強いのはお前たちだ。行け！

（コピーポケモンとオリジナルのポケモンがバトルを始める）

・心情

<米国版>

オリジナルに対して、コピーの方が圧倒的に優れているという自信にあふれていて、高圧的である。どちらが支配者になるかを決めようとしている。ミュウの本物の強さは能力ではなく心から生まれるのだという言葉に対して、コピーポケモン達の特別な力を自分の超能力によって封じるとしている。他のコピーポケモン達に対する信頼や愛情はあまり感じられない。

<日本版>

バトルに勝つことで、コピーこそが本物であると証明しようとしている。ミュウの、本物は技など使わず、体一つでぶつかりあえば必ず勝つという言葉に対して、技を使わず戦う。コピー達に対して力を封じるといったことはせず、「強いのはお前たちだ」と声をかけるなど、米国版に比べて愛着を持っているように感じられる。

6. 7サトシの石化

6. 7. 1サトシ(Ash)が本物とコピーの戦いを止めるため、ミュウとミュウツーの間に入るも、攻撃を受け石化する

・スクリプト

<米国版>

（コピーポケモンもオリジナルのポケモンも力尽きて倒れこみ、ミュウとミュウツーだけが戦い続けている）

Ash: Oh! Oh! Oh!

Brock: Ash, wait!

Ash: You gotta stop right now!

（ミュウとミュウツー、お互いに向けて最大級の衝撃波を放とうとする）

Ash: Stop!!

(サトシ、間に割りこみ衝撃波を受ける)

Misty: Ash!

Brock: Oh no!

Pikachu: Pikapi!

Mewtwo: Fool! Trying to stop our battle!

Mew: Mew?

<日本版>

(コピーポケモンもオリジナルのポケモンも力尽きて倒れこみ、ミュウとミュウツーだけが戦い続けている)

サトシ：やめろ。

タケシ：サトシ！

サトシ：もうやめてくれ。

(ミュウとミュウツー、お互いに向けて最大級の衝撃波を放とうとする)

サトシ：やめろー！！

(サトシ、間に割りこみ衝撃波を受ける)

カスミ：サトシ！

タケシ：サトシ！

ピカチュウ：ピカピ！

(サトシ、石化する)

ミュウツー：ばかな！人間が我々の戦いを止めようとした……！！

ミュウ：ミュウ？

・心情

<米国版>

ポケモン同士の戦いを止めようとしたサトシの行動に驚きを感じている。

<日本版>

ポケモン同士の戦いを止めようとしたサトシの行動に驚きを感じている。

6. 7. 2オリジナルのポケモンとコピーのポケモンが涙を流し、サトシ(Ash)が復活する
スクリプトが無いため割愛する。

6. 8 終焉

戦いをやめ、サトシ達の記憶を消し、どこかへと旅立つ

・スクリプト

<米国版>

(ポケモン達とサトシの様子をミュウとミュウツーが上空から見ている)

Mewtwo: The human sacrificed himself to save the Pokemon. I pitted them against each other. Not until they set aside their differences did I see the true power they all share deep inside.

Mew: Mew!

Mewtwo: I now see that the circumstances of one's birth are irrelevant. It is what you do with the gift of life that determines who you are.

Mew: Mew!

(ミュウとミュウツールの超能力でコピーポケモン達が空に舞い上がる)

Ash: Mewtwo! Where are you going?

Mewtwo: Where my heart can learn what yours knows so well. What transpired here I will always remember. But perhaps for you, these events are best forgotten.....

<日本版>

(ポケモン達とサトシの様子をミュウとミュウツールが上空から見ている)

ミュウ：ミュウ。

ミュウツール：確かに、お前も私もすでに存在している、ポケモンどうした。

ミュウ：ミュウ。

ミュウツール：この出来事は誰も知らない方がいいのかもしれない。忘れた方が、いいのかもしれない。

ミュウ：ミュウ。

(ミュウとミュウツールの超能力でコピーポケモン達が空に舞い上がる)

サトシ：みんな、どこへ行くの？

ミュウツール：我々は生まれた。生きている。生き続ける。この世界の、どこかで。

・心情

<米国版>

自らを犠牲にして争いを止めた Ash を見て、進んで争いをさせていた自分の愚かさに気づく。そして、コピーとオリジナルが流した涙で Ash が復活した様子から、コピーとオリジナルが同じ力を持っているということに気づく。アイデンティティは、生まれた環境ではなく、自分の行いで形作られていくのだという結論を出す。

<日本版>

自らを犠牲にして争いを止めたサトシを見て、人間に対しての希望を抱く。さらに、コピ

一もオリジナルも同じ涙を流すことができることから、同じポケモンどうしであり、存在しているだけで十分であるということに気づく。結局、自分のアイデンティティについての結論は出ないが、コピーも本物であると認められる日が来るまで、コピーがいるという事実を一旦人間の記憶から消し、その日までどこかで生き続けることを選択する。

7. 日米の比較結果

大きな違いは、3つ。逆襲の動機、自己存在への問い、自己存在についての結論である。

・逆襲の動機

米国版ミュウツールの逆襲への動機は、自分がコピー、実験の産物にすぎないこと、創造主である人間が自分のことを気につけないこと、サカキ（Giovanni）の裏切りである。自分を平等なパートナーだと言ったはずのサカキが、ただ自分を利用していただけで、また「ポケモンと人間は平等ではない」と言われたことが最終的なトリガーとなっている。

日本版ミュウツールの逆襲への動機は、作られた生き物である自分の存在がわからないこと、人間が自分を生み出したこと、サカキ（Giovanni）が自分を道具として扱っていたことである。サカキ（Giovanni）が自分を道具として扱っていなかったことで、自分が自分である意義を否定され、決定的なアイデンティティクライシスを起こしたことが、最終的なトリガーとなっている。

この動機の違いから、米国版のミュウツールの逆襲は世界征服という非常に明確なものとなっているが、日本版のミュウツールの逆襲は自分が「本物」であると証明することという、曖昧なものとなっている。

・自己存在への問い

米国版ミュウツールは、中盤において「自分の目的は自分で探す」ことを宣言しており、それ以降自己存在への問いを発することも、ほのめかすこともない。自分のオリジナルであるミュウとの戦いは、オリジナルよりコピーの方が強く、地球を支配するのにふさわしいことを証明しようとするものである。

日本版ミュウツールは、「本物」であることが自己存在の肯定になると考え、自分が「本物」であることにこだわり続ける。ミュウとの戦いは、オリジナルをコピーが超えることで、コピーこそが「本物」であることを証明しようとするものである。

・自己存在の結論

米国版のミュウツールは「出生ではなく、贈り物である命の中で何をするかが、自分が何者かを決めるのだ」という結論を出す。

日本版のミュウツールは自己存在に対して明確な肯定はできないもののコピーもオリジナ

ルも「すでに存在している、ポケモンどうし」であるとして、存在しているというそれだけで十分であるという結論を出す。

以上のような相違点から、日本版のミュウツーに対し、米国版のミュウツーの方が「自分とは何か」に関してあまりこだわりが無いように見られる。

しかし、この映画が放送された当時は、世界的にアイデンティティクライシスが問題となっており、米国ではあまり問題視されていないから描写を減らしたということは考えられない。こういったことから、自己存在への問い以上に物語を盛り上げる要素を取り入れようとしたことが、このような相違に繋がったのではないかと考えた。

そこで注目したのが、逆襲の動機についてである。米国版ミュウツーが、創造主としての人間と被創造物である自分の関係性を、日本版ミュウツー以上に意識している。このことから、フランケンシュタインコンプレックスが、米国版『ミュウツーの逆襲』に大きく関わっているのではないかという仮説を立てた。

しかし、日本版の脚本家である首藤も

たとえば、「フランケンシュタイン」という人造人間を作りだした人間と、その怪物を描いたシェリーの原作は、恐怖小説ではない。怪物はインテリであり、人間に作られた「自分の自己存在の意味」を問い続ける。

余談だが、怪物を作りだしてしまった「フランケンシュタイン博士」の心情も描かれている作品である。

生命を作り出すのは神の所業だったはずなのに、それをやってしまった人間と、作られた人間の「自己存在」の葛藤を描いた小説である。

そして、結局、メインテーマは「自分とは何か？」である。1)

とコラムの中で『フランケンシュタイン』の影響を示唆している。しかし、『フランケンシュタイン』のメインテーマが「自分とは何か？」1) というものであるという考えは、あくまでも首藤のものである。よってまずは『フランケンシュタイン』という作品自体と日米版『ミュウツーの逆襲』の比較を行い、それぞれどの部分からどのような影響が見られるのかを調べた。

8. フランケンシュタイン（原著）との比較

8. 1 『フランケンシュタイン』概要

8. 1. 1 あらすじ

生命の神秘にあこがれるフランケンシュタインは死体をつなぎ合わせ人造人間（怪物）を作り出すも、あまりの醜さに逃げ出してしまふ。怪物は人間の生活を見て、心や知性を得るが、人間に迫害されてしまい、自分を見捨てた創造主を呪うようになる。

8. 1. 2 主な登場人物

ウォルトン隊長：イギリスの探検家。北極を目指す途中で、主人公であるフランケンシュタインを船に乗せる。

フランケンシュタイン：主人公。生命の神秘にあこがれ人造人間（怪物）を作り出す。

怪物：フランケンシュタインの創造した人造人間。醜く、身体能力が高い。

フランケンシュタインの父：かつて長官を務めた。怪物に殺される。

エリザベート：フランケンシュタインの許婚者。怪物に殺される。

クレルヴァル：フランケンシュタインの親友。怪物に殺される。

ジュスチーナ：フランケンシュタイン家の女中。怪物が弟を殺した罪を着せられ死刑に。

ウィリアム：フランケンシュタインの幼い弟。最初に怪物に殺される。

8. 2 比較

・時代背景

『フランケンシュタイン』は、イギリス人のメアリー=シェリーによって、1818年に初版が出版された。19世紀は、イギリスで産業革命が起こった時期である。

『ミュウツウの逆襲』の上映された1998年の前後は、世界初の体細胞から作られた哺乳類のクローンである羊のドリーが話題になった。脚本家の首藤も、

確かに、当時の科学の最大の話は、遺伝子の解明と遺伝子操作であった。

『ポケモン』の10年ほど前に、『まんがはじめて物語』シリーズで、遺伝子操作をテーマにした回があったが、その脚本を書いたのは僕である。

その時、遺伝子と遺伝子操作の可能性について、それに関わる文献を読み、専門の学者たちの話を聞き、かなり徹底して調べたから、たぶん今でも、その分野について日本の脚

本家の中で一番詳しいのは僕かもしれない。

とコラムの中で述べており、更に

遺伝子操作による自分のコピーが存在する未来は、どんどん近づいている。

明らかに、人間、特に子供たちの潜在意識の中にある自分のコピーへの感覚は、お気楽なものから、得体のしれない不気味なものに変わってきた。

と語っている。技術の革新により、日本人の意識に変化が生まれてきたのである。

産業革命と遺伝子操作では、物語への直接的な関わり方は大分違ったものとなるが、技術の進歩に対しての何らかの影響が見られると感じられる。また、フランケンシュタインコンプレックスのような現象が創造主という概念のあまり定着していない日本においても見られるようになったが、どちらかといえばこれは自分のコピーが生み出されることによって、自分のアイデンティティがゆらぐことに対する不安が表れていると考えられる。

・創造主の義務

『フランケンシュタイン』の怪物は創造主に対して、義務さえ果たせば危害を与えず従うと語る。その義務とは、醜い女の怪物を作り、自分を孤独から救うことである。これは、怪物が作中で手にする、『失樂園』のアダムとイヴから着想を得たものである。さらに、創造主であるフランケンシュタインも、怪物の話聞いて同情する部分もあり、創造主である自分は被創造物である怪物を幸福にすべきであると感じる場面もある。さらに、神と自らの創造主を比較する場面もある。

米国版ミュウツーは、誕生してすぐのシーンにおいて、人間が自分のことを気にかけないことに不満を抱いている。これは日本版には無い描写である。しかし、フランケンシュタインと違い、ミュウツーの創造主である人間は、ミュウツーを実験の産物としか見ておらず、ミュウツーを幸福にすべきであると感じている場面はない。

しかし、フランケンシュタインも、怪物を創造した直後は被創造物を幸福にする義務を感じてはいない。また、ミュウツーは怪物と違い最初から知性を身に着けているため、誕生の瞬間に怒りを感じ人間を殺してしまったという、条件の違いがある。

人間に創造されたことを不満に思うのは日本版のミュウツーも共通しているが、米国版ミュウツーと怪物は、創造主である人間の態度に対して不満を感じている。これはやはり、創造主という概念がはっきりしており、創造主は被創造物に対して果たさなければいけない義務があるが、人間にそれを果たすことはできないということの現れであり、フランケンシュタインコンプレックスが本来の意味で影響していると考えられる。

・逆襲

『フランケンシュタイン』の怪物は一度、創造主への恨みからその弟を殺すが、感情的なものである。逆襲を本格的に決意するのは、創造主が約束を破り、相方となるはずだった女の怪物を破壊してしまったときである。そしてその手段は、創造主の周りの人間を殺し、創造主に不幸を味あわせるという直接的なものである。

米国版ミュウツーが逆襲を本格的に決意するのは、自分をパートナーと言ったサカキ(Giovanni)に裏切られたことがきっかけである。こちらは直接の創造主ではないが、創造主である博士たちを既に殺してしまったこと、また人間が私を作ったと発言していることから、人間を一括りとして創造主と見ていると考えられる。そして、自分に反抗するもの全てを消し、世界征服をしようとする。

こういった点からみると、怪物と米国版ミュウツーは非常に近いものに見え、また創造主と被創造物の関係が強く表れている。

・自己存在への問い

『フランケンシュタイン』の怪物は、知性を得て書物を読めるようになったときから、他に自分と似た存在がない、つまり何者かわからないことを理解し、悩み、自分をなぜ作ったのかと創造主に怒りと復讐心を抱くようになる。

米国版ミュウツーは、創造されたこと自体に対しての不満は見せない。対して日本版ミュウツーは、何者でもない自分を生み出したことが、人間に対する最も大きな怒りである。

さらに、日本版のミュウツーがサカキ(Giovanni)の言葉によって決定的なアイデンティティクライシスを起こしたのと同様に、怪物は孤独からアイデンティティクライシスを起こした。ミュウツーの葛藤は誕生の瞬間から開始しているが、これはミュウツーが最初から怪物の成長後と同程度の知能を持っているからだと考えられる。

首藤は、これが『フランケンシュタイン』の中での最も大切な部分だと感じ、影響を受けたと考えられる。つまり、『フランケンシュタイン』をゴシック小説というよりも、ロマン主義の小説として見ているのである。

9. 登場人物の示すもの

これまでの比較において、米国版においては被創造物と創造者という関係、日本版においては自己存在についての葛藤が大きな軸になっていると考えられる。そこで、物語のメインとなるミュウツーおよびサトシ(Ash)がそれぞれどのような役割を果たしているのかを探ることで、日米の違いを整理した。

9. 1. ミュウツー

まずは物語の中心であるミュウツーについての分析を行う。米国版では日本版に比べミ

ユウツウの起した「嵐」についてとても細かな描写が行われている。

以下はミュウツウの誘いを受け、ポケモン城のある孤島へ向けて航海しようとするサトシ (Ash) 達に向けての、ボイジャー (Miranda) の台詞である。

・スクリプト

<米国版>

Miranda: The ancient writings tell of the storm wiping out all but a few Pokémon. In their sorrow, the water of their tears somehow restored the lives lost in the storm. But there are no Pokémon tears today, just waters, in which no one can survive.

<日本版>

港育ちのあたしが、今まで経験したことのない嵐です。しかも、その嵐はこの沖合、ニューアイランドの上空にある。皆様を、危険な目に合わせるわけには参りません。それが、この港を守る私の願い。

また、コピーポケモンを生み出すためにトレーナー達の持つポケモンを奪う場面でも、嵐についての描写が見られる。

・スクリプト

<米国版>

(ミュウツウが、どんなポケモンでも捕まえられるモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

Ash: Uh. Uh, hey, wait!

Misty: What are you gonna do with those Pokemon?

Mewtwo: I will extract their DNA to make clones for myself. They will remain safe in this island with me, while my storm destroys the planet!

Brock: You can't do this!

Ash: Yeah, Mewtwo! We won't let you!

Mewtwo: Do not attempt to defy me!

(ミュウツー、Ash を超能力で吹っ飛ばす)

Mewtwo: This is my world now!

(大量のモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

<日本版>

(ミュウツーが、どんなポケモンでも捕まえられるモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

サトシ：やめろ！

カスミ：人のポケモンをとる気なの！？

ミュウツー：とる？いいや、お前たちが自慢するポケモンより、さらに強いコピーを作るのだ。私に相応しい。

タケシ：コピーだと？

サトシ：やめろ！そんなの反則だ！

ミュウツー：私に指図をするな！

(サトシを超能力で吹っ飛ばす)

ミュウツー：私のルールは私が決める！

(大量のモンスターボールを出現させ、トレーナー達のポケモンを奪う)

一般的な嵐は、人間を襲う悪の力のメタファーである。しかし「全てを消し去る嵐」というと、黙示録におけるキリスト再臨の前の大災害も想像させる。この映画の核となっている人間が生き物のコピーを生み出すという行為は、反キリスト教的である。こういった行為が行われている様子は、まさに終末時代を端的に表している。つまり、キリストの教えを忘れ、悪を行う人間に対し、神の代理=天使としてミュウツーが人間を裁いているように考えられる。日本版で一切嵐についての言及がないことから、米国版で特別な意図

があってこの描写を挿入したであろうことがわかる。

また日本版のミュウツーは自分の存在についての葛藤から「人間に逆襲する」ことを強調するが、米国版には「逆襲」という言葉は出てこない。その代わりに「この世界を支配する」という意思が表れている。例えば、以下は人間への逆襲を誓う場面の台詞である。

・スクリプト

<米国版>

Mewtwo: Who am I? What is my true reason for being? I will find my own purpose. And purge this planet of all who oppose me; humans and Pokémon alike. The world will heed my warning. The reign of Mewtwo will soon begin.

<日本版>

ミュウツー：私は誰だ。ここはどこだ。誰が生めと頼んだ。誰が作ってくれと願った。私は私を生んだ全てを恨む。だからこれは、攻撃でもなく宣戦布告でもなく、私を生み出したお前たちへの、逆襲だ。

ポケモン城においてトレーナー達の前に初めて姿を現したときの台詞にも表れている。

・スクリプト

<米国版>

Joy: You are about to meet my master. The time has come for your encounter with the greatest Pokémon master on earth.

(ポケモンたちざわめく)

(ミュウツー、階上から降りてくる)

Ash: What's that?

Pikachu: Pika.

All: Ah.

Joy: Yes. The worlds greatest Pokémon Master is also the most powerful Pokémon on earth. This is the ruler of New Island and soon the whole world: Mewtwo.

Ash: Mewtwo!

Fergus: A Pokémon can't be a Pokémon Master! No way!

Mewtwo and Joy: Quiet, human. From now on, I am the one who makes the rules.

Misty: How's it talking?!

Brock: It's Psychic!

(Fergus を超能力でふっとばす)

Mewtwo: Hmhmhm.

(Fergus、自分のポケモンにミュウツーを攻撃させるも、返り討ちにあう)

Mewtwo: Child's play! Your usefulness has ended!

(Joy、ミュウツーのコントロールを解かれ倒れこむ)

Brock: Nurse Joy!

Joy: Where am I? And how in the world did I get here?!

Mewtwo: You have been under my control. I transported you here from the Pokémon Centre. Your knowledge of Pokémon physiology proved useful for my plan. And now I have cleansed your tiny human brain of memories from the past two weeks.

Brock: Who are you?

Mewtwo: I am the new ruler of this world: the master of humans and Pokémon alike.

Misty: You're just a bully!

Pikachu: Pika!

<日本版>

ジョーイ：皆様、お待たせいたしました。最強のポケモントレーナーが、おいでになります。

(ポケモンたちざわめく)

(ミュウツー、階上から降りてくる)

サトシ：あれは……！

ピカチュウ：ピカ！

全員：おお！

ジョーイ：そう、この方は最強のポケモントレーナーにして、最強のポケモンであらせられる、ミュウツー様です。

サトシ：ミュウ……ツー……。

ピカチュウ：ピカ。

ウミオ：ポケモンがポケモントレーナー！？ばかな！！

ミュウツーとジョーイ：いけないか？私のルールは私が決める。

カスミ：この声！

タケシ：テレパシーか！

(ウミオを吹っ飛ばす)

(ウミオ、自分のポケモンにミュウツーを攻撃させるも、返り討ちにあう)

ミュウツー：たわいもない。お前にもう用はない！

(ジョーイ、ミュウツーのコントロールを解かれ倒れこむ)

タケシ：ジョーイさん！

ジョーイ：ここはどこ？ どうしてこんなところにいるの？

ミュウツー：私の世話をさせるためだ。ポケモンセンターから連れてきた。ポケモンの体のことに詳しい医者には便利だ。随分役に立った。お前は何も覚えていないだろうがな。

タケシ：なんだって！？

タケシ：人間など私の力をもってすれば、どうにでも操れる。

カスミ：ひどいことを！

ピカチュウ：ピカ！

このように、自分が支配者となるということを強調している点も、人間に代わって神の支配がはじまる様子を想像させる。しかし、この作品の主役はサトシ(Ash)である。それと対立し、人間に危害を加えようとするミュウツーは、いわゆる悪役である。日本版のミュウツーは、物語の最期まで自己存在についての葛藤を抱え続けているが、米国版のミュウツーは第 6 章でも述べた通り人間への逆襲を誓って以降葛藤を捨て、世界を支配することを目指す。米国版のミュウツーは、より悪役のステレオタイプに近い形で描かれている。

また、米国においてはコピーポケモンという存在に対する感情移入のし辛いのではと考えた。つまりキリスト教圏において、人間ではない上に人間に作られたコピーであるミュウツーが、人間と同じような葛藤を抱えているとは考えづらいということである。例えば、メス羊の乳細胞からクローン技術によって生み出されたドリーについてはそれ自体が問題というより、人間のクローンの研究に対して国家資金の支出を禁止する大統領命令を出したことに代表されるように、その後クローン人間を生み出すことを認めるべきか否かという点についての論争が巻き起こった。

日本版のミュウツーは、自分の存在について葛藤し、人間への逆襲を行う単純でエモーショナルな存在で、観客自身が感情移入する対象である。一方米国版のミュウツーは、天使の力を持つ悪であり被創造物という矛盾した要素を持ち合わせるものであり、共感を誘うというより、物語のスリルを増大させる役割を持つものとなっている。

9. 2. サトシ (Ash)

この物語におけるサトシ (Ash) の最も大きな役割は、自らの危険を顧みずオリジナルのポケモンとコピーのポケモンの争いを止めに入る、その結果ミュウツーに逆襲を思いとどまらせることである。これは日米どちらとも共通している部分である。

しかし、日本版のサトシが最初からミュウツーから仲間を守ることに全力を傾けているのに対し、米国版の Ash は物語の中盤までミュウツーを自分のものにするという意味を持ち続ける。これは、ポケモンマスターを目指して旅しているという目的が強く出た結果である。具体的には、ミュウツーによって自分達のポケモンを奪われるものの救出に成功し、ミュウツーのところに戻ってきたシーンの台詞が上げられる。

・スクリプト

<米国版>

Ash: It's not gonna end like this Mewtwo. We won't let it! You're mine!

<日本版>

サトシ：俺は、俺のポケモンを、俺の仲間を、守る！

また、米国版の Ash は『ミュウツーによる世界の支配』に対して反抗しているが、日本版のサトシはとにかく仲間を守るという意思の表示をしている。この点においては、日本独特のアニミズムが影響していると考えられる。この世界において、人間はポケモンを使役して戦わせているが、日本人にとってポケモンは友達という意識が強い。一方、キリスト教圏においては、神は自身に似せ、全てを支配させようとして人間を作ったとされており、他の動物とは違う存在として扱われている。そこで、Ash の中に『仲間を守る』というより『悪と戦う』という意識の方が強く出る上、そこに自分が使役する生き物を増やそうとする意識が加わるのではないだろうか。米国版において、ここまでの Ash は単なるポケモンマスターを目指す少年でしかない。しかし、Ash はミュウツーの元に戻ってきたとき、最初に手にしたポケモンであるピカチュウが、コピーのピカチュウに無抵抗で攻撃され続けているのを目にする。

・スクリプト

<米国版>

Joy: I'd rather risk my life out in Mewtwo's storm than watch these Pokemon destroy each other.

Misty: Well me too!

Joy: I wish there was some way to stop them! I don't know what to do!

Brock: I don't think they'll ever stop! Those Pokemon look like they're ready to fight to the death!

Misty: That's a fight that nobody's going to win.

Ash: Someone's gotta take a stand. Someone's gotta say no, and refuse to fight, just like Pikachu.

<日本版>

ジョーイ：生き物は、同じ種類の生き物に、自分の縄張りを渡そうとはしません。

カスミ：そんな……

ジョーイ：相手を追い出すまで戦います。それが生き物です！

タケシ：それが生き物……だけどミュウツーは人間が作った！

カスミ：でも、今はもう生き物。

サトシ：今は生き物。ミュウもミュウツーも、ピカチュウも、あのピカチュウも！

米国版の Ash はこのポケモン同士の戦いが間違っており、ピカチュウのようにそれを止める存在が必要だと考え、実際に行動に移す。一方、日本版のサトシは同じ生き物同士が戦っている様子を見て心を痛めるにとどまっている。つまり米国版の Ash は「復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。」(レビ記 19 章 18 節) 4) とあるように、正義感に基づいて自分の身を挺してこの争いを止めることを決意し、日本版のサトシは心の痛みに耐えきれなくなり思わず飛び出してしまう。これは大きな違いである。米国版の Ash はキリスト教的道徳に目覚めそれに従って行動し、そのことによってミュウツーはポケモン達を戦わせた己の過ちに気づく。一方日本版のサトシは無意識のうちに飛び出して争いを止め、その姿に感銘を受けたミュウツーが自身を含めたコピーポケモンの存在を肯定する。

日本版のサトシは、人間でありながらポケモンに対して心から同情し、その心でミュウツーや他のポケモン達を救うことで、ミュウツーに感情移入している観客にも救いをもた

らす。一方米国版の Ash は、最初はただ自分の目的のためだけに必死になっていたが、キリスト教的道徳に目覚め、その正義によってミュウツーを改心させることで、観客にもその道徳を伝える役割を果たしていると言える。

10. 結論

映像は冒頭のアナレーション部分しか変更されていないにも関わらず、脚本に関してはかなり大きな変更がされており、メインとなる登場人物の果たす役割も変わっていた。この変更には、やはり自然崇拝が根底にある日本と、人間中心主義を基本としたキリスト教徒の多い米国という違いが表れており、仮説が証明された。

しかし、本当にこの作品を日本製ファミリー向けエンタテインメントの米国での成功例として考えてよいのかという点では疑問が残った。というのも、冒頭でも述べた通り、メインテーマは自己存在への問いである。米国版において、ミュウツーの葛藤はほとんど描かれていない。その一方、様々な要素をかけあわせることによって、子ども向け映画にも関わらずスリル感とスケールの大きさを感じさせたことが、米国における日本映画興行第1位を守り続けている要因だと考えられる。また、Ash の最期の行動が正義感を感じさせるものだった点も、親にとっては安心要素であり、暴力描写があるにも関わらず全年齢対象映画となった理由の一つとして考えることができる。単なるエンタテインメントではなく、日本版同様のメッセージを伝えるならば、ミュウツーをもっと人間に近い存在にすべきである。例えば、クローンポケモンではなく、クローン人間であれば、その葛藤を共有することができただろう。

こういったメッセージ性の強い作品を海外で通用させるためには、翻訳の際に単純なエンタテインメント作品に変えてしまうか、日本版を作る段階で、テーマに合わせた題材を他の配給予定国でも通じるように選ぶことが必要である。

11. 課題

今回は事例研究ということで、普遍的なファミリー向けエンタテインメント作品に求められるものについて定義することができたとは言い難く、日本でヒットしたが米国ではヒットしなかった作品や、ポケモンシリーズの他の映画についても比較分析する必要がある。また『ミュウツーの逆襲』についても、コピーという存在が米国で作られたファミリー向けエンタテインメント作品の中でどういった扱いをされているのか分析し、比較するべきと考えられる。

1 2. 引用

1) WEB アニメスタイル COLUMN シナリオえーだば創作術 誰でもできる脚本家 首藤剛志 第 180 回 ポケモンの涙とミュウツウの記憶抹消

http://www.style.fm/as/05_column/shudo180.shtml 2014 年 1 月 17 日閲覧

2) WEB アニメスタイル COLUMN シナリオえーだば創作術 誰でもできる脚本家 首藤剛志 第 179 回 『ミュウツウの逆襲』クライマックス

http://www.style.fm/as/05_column/shudo179.shtml 2014 年 1 月 17 日閲覧

3) WEB アニメスタイル COLUMN シナリオえーだば創作術 誰でもできる脚本家 首藤剛志 第 184 回 『ミュウツウの逆襲』のその先へ

http://www.style.fm/as/05_column/shudo184.shtml 2014 年 1 月 17 日閲覧

4) 共同訳聖書実行委員会『聖書 新共同訳』（レビ記 19 章 18 節）1987 日本聖書協会

1 3. 参考文献

秋山正幸、榎本義子『比較文学の世界』2005.8 株式会社南雲堂

朝日新聞社『朝日総研レポート(143)』2000.4 朝日新聞総合研究本部

金承哲「「神を演ずる」ことについて：ヒト・クローンをめぐるキリスト教的生命倫理の多様性(1)」『金城学院大学キリスト教文化研究所紀要 9』pp.1-33. 2006 金城学院大学

金承哲「「境界」の脱構築と倫理：「ドリー以後」における人間の自己理解を中心にして」『宗教研究 83(2)』pp. 431-451. 2009 日本宗教学会

金承哲「「クローン羊ドリー」をめぐる神学的論争について」『金城学院大学キリスト教文化研究所紀要 7』pp. 1-21. 2003

富田仁『東西文学の接点』1991.3 早稲田大学出版部

廣田花崖『コンコルダンス』1953 新教出版社

保坂幸博『日本の自然崇拜、西洋のアニミズム—宗教と文明/非西洋的な宗教理解への誘い』2003 新評論

松村昌家『比較文学を学ぶ人のために』1995.12 世界思想社

ミシェル・フイエ『キリスト教シンボル事典』2006 文庫クセジュ

村上清一『文化の類型と比較文学』2000.2 株式会社文芸社

Mary Shelley『Frankenstein—フランケンシュタイン—』1989 ペンギンブックス

山本周二『州立大学客員教授 日米比較文学を語る』1996.8 金星堂

WEB アニメスタイル COLUMN シナリオえーだば創作術 誰でもできる脚本家 首藤剛志
http://www.style.fm/as/05_column/05_shudo_bn.shtml 2014 年 1 月 17 日閲覧